

第31回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

平成31年4月25日（木） 10:00～11:30

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

青木部会長、片岡部会長代理、遠藤委員、久保委員、白坂委員、土屋委員、中須賀委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、行松審議官、山口参事官、須藤参事官、高倉参事官、森参事官、滝澤参事官

(3) 関係省庁等

内閣官房 国家安全保障局 伊藤内閣審議官
外務省 総合外交政策局 宇宙室 山口室長
防衛省 防衛政策局 戦略企画課 五味課長

4. 議事要旨 (○：質問・意見等 ●：回答)

(1) 防衛計画の大綱等について（宇宙関連）について

資料1に基づく防衛省からの説明の後、次のような議論が行われた。

○大綱・中期防が画期的なものになり、今後は、米国をはじめとする、日本と多国間における宇宙の役割分担等の将来の在り方についての検討が必要である。

○4月19日の日米安全保障協議委員会で取り上げられたホステッドペイロードは、日米協力における重要なアイテムとなった。

○大綱・中期防は進歩はしたものの、他国と比較すると遅れているため、これからどのような形・スピード感でキャッチアップしていくべきか。

●宇宙は、政府としての優先分野であり、できる限りスピード感をもって取り組んでいきたい。また、米国との関係が重要であることはもちろん、国内における他省庁・民間の力を活用することも必要である。

○宇宙領域を専門とする部隊を作る際、外の専門家の活用等も大切なのではないか。

●重要であるとの認識を持っている。

○入手する情報の種類、入手する頻度等、具体的な事項について議論を深められると更に良い。その際、海外のみならず国内の企業等を有効に活用することで、日本の産業の振興にもなる。

○日本として自分たちの衛星を守ることについて考えていくことが必要である。

(2) 宇宙安全保障に関する動向について

資料2-1及び資料2-2に基づき、三菱重工業株式会社及び村野氏から説明の後、次のような議論が行われた。

○米国における即応ローンチ・チャレンジで使用する射場は存在するのか。

●存在する。

○宇宙・サイバー等の新領域における能力を評価することが重要である。

(3) 宇宙基本計画工程表の改定に向けた重点事項について

資料3に基づき、事務局から説明が行われた。

以上